

多田雅史

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol. 1 2 8】
添付ファイル: V_720074(NHKニュース、不眠ガイドライン) .WMA; 向精神薬等の過量服薬を背景とする自殺について (厚生労働省) __甲B270号証.pdf; 睡眠薬の適切使用に向けた初の指針 (NHK)平成25年6月13日__甲B19号証.pdf; 睡眠薬など44種類服用繰り返すと副作用 (NHK)平成29年4月24日__甲B273号証.pdf; 添付文書改訂 (NHK 4月22日) .wma

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約300カ所へ送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。
今回の情報は添付資料に音声データがあるため容量大なのでご注意ください。

【目次】

- 1-1. 睡眠薬適切使用に向けた初の指針「不眠症ガイドライン」 (NHK音声と資料添付)
2. 「睡眠薬など44種類服用繰り返すと副作用のおそれ (NHK音声と資料添付)
「ベンゾジアゼピン系薬物の医薬品添付文書の改訂」
3. 向精神薬等の過量服薬を背景とする自殺について (厚生労働省) (添付)

【記事】

- 1-1. 睡眠薬適切使用に向けた初の指針「不眠症ガイドライン」 (NHK音声と資料添付)
http://labo.sleepmed.jp/content/files/media/130613_NHKnews.pdf
<http://www.jssr.jp/data/pdf/suiminyaku-guideline.pdf>

やっと、平成25年に日本睡眠学会が国内で初めて「ベンゾジアゼピン常用量依存」を認め、ガイドラインを制定したが、諸外国では1980年代には「常用量依存」が警告されていたため、日本は諸外国から遅れること30年であった。

以下引用 **詳細は添付音声・資料参照**

『睡眠薬の「離脱症状」に悩む患者
長期にわたって睡眠薬を使い続けると、薬の服用をやめたときに「離脱症状」と呼ばれる強い不安感や不眠の悪化に苦しめられる患者も多くいます。』

2. 「睡眠薬など44種類服用繰り返すと副作用のおそれ (NHK音声と資料添付)
「ベンゾジアゼピン系薬物の医薬品添付文書の改訂」

平成29年3月にベンゾジアゼピン系薬物の医薬品添付文書が改訂された際のNHK放送であるが、未だに、医療機関への注意は浸透していない。

以下引用

『睡眠薬や抗不安薬など精神障害の治療で広く使われている44種類の薬について、厚生労働省は承認された用量でも、服用を繰り返すと依存性が高まり、副作用が出るおそれがあるとして全国の医療機関に注意を呼びかけています。』

3. 向精神薬等の過量服薬を背景とする自殺について (厚生労働省) (添付)

以下引用

『さて、最近の厚生労働科学研究において、精神科に受診していた自殺者が、自殺時に向精神薬その他の精神疾患の治療薬 (以下、「向精神薬等」という。) の過量服薬を行っていた例 (薬物が直接の死因ではない場合を含む) が多くみられるという』

結果が出ております。』

本情報提供Vol.127の「監察医務院から見てくる多剤併用（福永龍繁）」のとおり自殺者の死因は司法解剖しなければ「中毒死」を断定できない。しかも、解剖して死因が「中毒死」であっても、それが「自殺」か「薬物の脱抑制」の結果か判断できない。つまり、ベンゾジアゼピンを連用すると薬物耐性が生じて服用量が増加することがあり、その際「副作用の脱抑制」を生じると、自殺の意志がなくても、一気に大量のベンゾジアゼピンを服用してしまふ事態が生じる。したがって、死因が「自殺」か「副作用死」か区別できないという医師の判断に至る。これが日本で処方薬のOD死がないとされる所以である。

この点、NCNP松本俊彦医師は、「ベンゾジアゼピンの大量服用により救急搬送され、救命した患者」にヒヤリングした結果を論文にしており、「患者は自殺の意志はなかった」と答えているため、「ベンゾジアゼピン脱抑制による不慮の事故」があることが明らかにされている。

当時、MHLWIは向精神薬による自死検討会を設けたが、どういうわけか？、その後立ち消えになっている。



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史

協議会の連絡先

愛知県及び東京都に連絡先を置く

愛知県（暫定仮）

柴田・羽賀法律事務所

〒461-0001 名古屋市東区泉1-1-35

ハイエスト久屋5F Tel: 052-953-6011

